

平成26年度 第1回学校評議員会の報告

- 1 日時 平成26年6月16日(月) 10:00～12:30
2 場所 本校会議室
3 出席者 学校評議員
A評議員 (交流学校長)
B評議員 (地域代表)
C評議員 (福祉・行政代表)
D評議員 (関係機関代表)
E評議員 (保護者代表) 以上5名

学校職員 校長 副校長2名 事務長 総括教務主任 小学部主事
中学部主事 高等部主事 進路指導主事 寮務主任
以上10名

- 4 授業参観 10:00～10:45

- 5 学校評議員会 10:50～12:30

(1) 学校長挨拶

◎学校評議員の紹介及び職員紹介

(2) 議題

ア 平成26年度学校概要及び運営方針について

- 【学校概要、運営方針】 ----- 校長より説明
【各学部運営方針について】 ----- 各学部主事より説明
【校務運営方針について】 ----- 分掌部長、副校長より説明
【入学・転入学者の状況】 ----- 総括教務主任より説明

イ 平成25年度の取組

- 【平成25年度進路状況】 ----- 進路指導主事より説明
【特別支援教育センター活動状況】 ----- 総括教務主任より説明

ウ 意見交換・提言

< A評議員 >

心と心、気持ちを通じ合わせる交流が早い段階の1年生からできることはとても良い。交流は、通常学級の子どもにとっても学びが多い。近隣他校との交流も広めながら、地域全体に交流の輪を広げていくことがインクルーシブ教育の理解啓発につながると思われる。

< B評議員 >

各学部の取組は素晴らしい。寄宿舎は、児童生徒の安全確保が第一であり、災害時の支援には、地域の消防団はもちろんだが、近隣住民の援助をいただくことも考えた方が良い。

< C評議員 >

限られた職員数できめ細かい指導がなされている。行政の立場からは、家庭・地域生活を安定させ、子どもたちが楽しい学校生活を送れるように向けていきたい。今後も学校と連携をして進めていきたい。

< D 評議員 >

卒後の進路先として事業所がある。B型事業所の基準は、利用者10人に対して1人の職員配置だが、本事業所は利用者の高齢化が進んでいるため6人に1人職員を配置している。しかし、学校は、福祉サービス事業所に比べるとはるかに職員配置が手厚い。卒後は、事業所でのマンツーマン指導は厳しいことを進路指導の一貫として保護者理解を図ってほしい。

< E 評議員 >

子どもが入学した当初と、現在の職員体制や学校状況はかなり違ってきている。特に教室不足は大きな課題である。2つのクラスが一つの教室を使用する状況で、子どもにとっての環境は厳しい。早急な改善を望むものである。

他校の小中学校から入学してくる生徒、小学部から在籍している子ども、それぞれのニーズに応じた進路指導の充実を図ってほしい。

登校時、敷地内の安全が憂慮される。走行車両が多く、また歩道がないため危険である。歩道の設置、道路脇の土部分を雨の日でも歩きやすいように改善してほしい。

→（校長）児童生徒の実態の重度多様化による学校状況の変化もあり、入学当初と状況が違っている面は否めない。職員定数は、単純に学級数・児童生徒数に対応した職員数の問題だけでなく、問題自体が重層的、複合的でもある。例えば、児童生徒の障がいの状態や職員の男女比などもある。保護者の皆様の願いに応えられるように学校も努力していきたいと思うが、限られた環境の中でのこの現状も理解していただくことをお願いしたい。